

# 防爆対応Ethernet(APL)

日本フィールドコムグループ 高橋 誠一郎



# 有線フィールド通信を取り巻く最近の動向

#### Advanced Physical Layer (APL)

- IEEE 802.3cg 10SPE
  - Ş 全2重、2線式伝送で1kmの長さのイーサネット用の物理層についての標準化
  - § フィールド機器の本質安全防爆に適合した低電力の実現

 プロフィバス協会(PROFINET)、ODVA(EtherNet/IP)、FieldComm Group(HART-IP)が協力し、 IEEE 802.3 cg 10SPEのコンパニオン標準を策定し、本質安全防爆についての詳細を規定することに つき、合意









HART-IP



# 有線フィールド通信の最新動向 プレス発表



NAMUR総会(2017年11月)

ACHEMA展(2018年6月)





### NAMUR総会でのプレスリリース

Current Activities to Bring an Advanced Physical Layer to Industrial Ethernet

Cooperation to promote the development of an Advanced Physical Layer for







- Organizations. Promotion of an advanced physical layer for industrial Ethernet and integration of amendments to IEEE 802.3 for single-pair Ethernet into their respective standards for industrial Ethernet with additional specifications for its use in hazardous locations where intrinsically safe devices may be preferred and/or demanded.
- Suppliers. Joint research and development to accelerate development of technology and components needed to make and sell Ethernet-connected products with an advanced physical layer that meets IEC standards for intrinsically safe process field devices and related Ethernet infrastructure.

The initial period of cooperation is planned through 2020 following anticipated publication of the IEEE 802.3cg standard in 2019.

THE COOPERATION ACTIVITY FILLS IN THE GAPS IN THE IEEE ACTIVITY BY FOCUSING ON THE USE CASES, TECHNOLOGY AND REQUIREMENTS TO REALIZE AN ADVANCED PHYSICAL LAYER FOR PROCESS FIELD DEVICES.

Technologies and Standards for Process Automation: Advanced Physical Layer for Ethernet Fieldcomm Group ● ODVA ● PI

8 November 2017 draft 20171104.1 page 13





# ACHEMA展 共同デモ展示



同一のEthernetケーブル上にHART-IP機器とEtherNet/IP機器が混在

# そもそも、なぜAPLが必要?

- l 双方向のデジタル通信の登場により、解決されるはずだった。。。。
  - CAPEX, OPEX、メインテナンスコスト削減 (システム、フィールド機器)
  - 工場の稼働率と生産性の大幅な向上
  - ○設計の簡略化
  - 相互運用性の実現
  - 豊富な診断情報の有効活用
  - 高可用性、パフォーマンス向上
  - ダウンタイム短縮と迅速な設置と試運転による簡単なエンジニアリング
  - 制御システム、アセット管理システムの簡単な統合
  - ケーブル削減や部品削減による設置面積の縮小
  - 設計、エンジニアリング、試運転のコスト削減
  - 機器交換の容易性

など

# エンドユーザの認識とジレンマ

#### Pros

- o FISCO本安で電力制限緩和
- スタートアップ時の作業簡略化メムーズで簡単なループチェック

#### l Cons

- デバイスインテグレーションに関する大きな課題
- 機器交換が複雑でPlug&Playになっていない
- 機器の物理的なエラーがセグメント全体に波及
- 診断情報が煩雑、設定が必要
- 世間一般的でない個別のネットワーク用語の反乱



#### l 結果として、

- 従来からのシステムを使い続けることとなる。
- 加えて、世の中はIoT・Industrie40のブームとなり、プロセスオートメーションは取り残される懸念あり

### キーワードが雑多でわかりにくい

- 各種キーワードー例
  - o Class61, 62, . .
  - 様々なプロファイル
    - § Device Profile, Communication Profile
  - ファンクションブロック
  - セグメントレイアウト
  - o デバイスインテグレーション
  - H1, LAS, DD, FDI, FDT, EDDL, VFD, FISCO, FB, NMIB, SMIB, VCR...

このような状況を打開し、プラント内にある様々なデータを円滑に有効活用するために。。。



NAMUR Open Architecture NAMURオープンアーキテクチャ

Enable the installed base for IIoT and I4.0 concepts IIoTならびにI4.0コンセプトの実装ベースでの実現

Based on available FDI and OPCUA technology

FDIおよびOPCUA技術に基づく

Open for new approaches within IIoT and I4.0 concepts

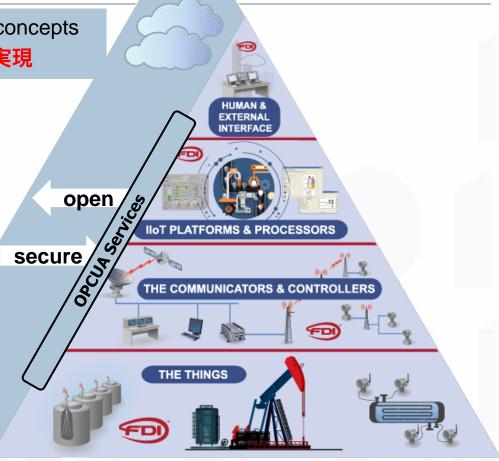
IIoTおよびI4.0への新たなアプローチ

Nor risk on availability and safety for installed base

既存システムへの可用性ならびに安全 性のリスクはない

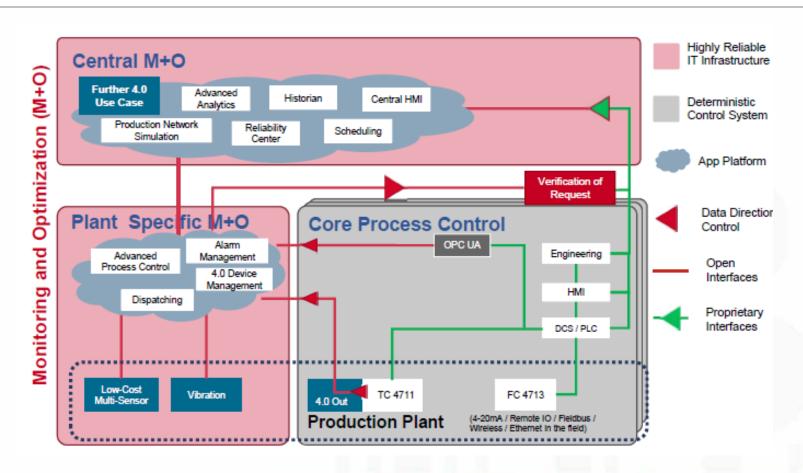
I Enables significant improvement of cost per sensor

センサーごとの大幅なコスト改善





# NAMUR Open Architecture NAMURオープンアーキテクチャ



### NOA プロセス制御

- l コアとなる部分
  - センサà アクチュエータなどへの制御機能の実行
  - シーケンス制御、バッチ制御機能の実行
  - 全インラインセンサーからの情報収集
  - オペレータへの効果的で集約されたHMIの提供
- Ⅰ 取り組むべき技術的側面
  - o DCS内の機器情報へのアクセスインターフェース(例:OPC UA)
  - IPベースのフィールドバス技術の開発
  - モニタリングと最適化のデータを外部の要求を安全に処理するための手段

安全で高信頼性なプラント運転のためのリアルタイム通信が必要

# NOA モニタリング + 最適化 (M+O)

- l コアとなる部分
  - 資源配分や高度なプロセス管理など、直接のプラントに関連する情報のモニタリング、最適化
  - アドオン可能なセンサなどから収集したデータの活用による高度な分析
  - モニタリングと最適化から得られた知見をコアプロセス制御に反映
  - 革新的なソリューションを迅速に導入するためのデータ収集など
- 実現に向けて開発すべき機能とサービス
  - オープンアプリケーションプラットフォーム
  - プロセス制御ドメインのプラットフォームに依存しないインターフェース

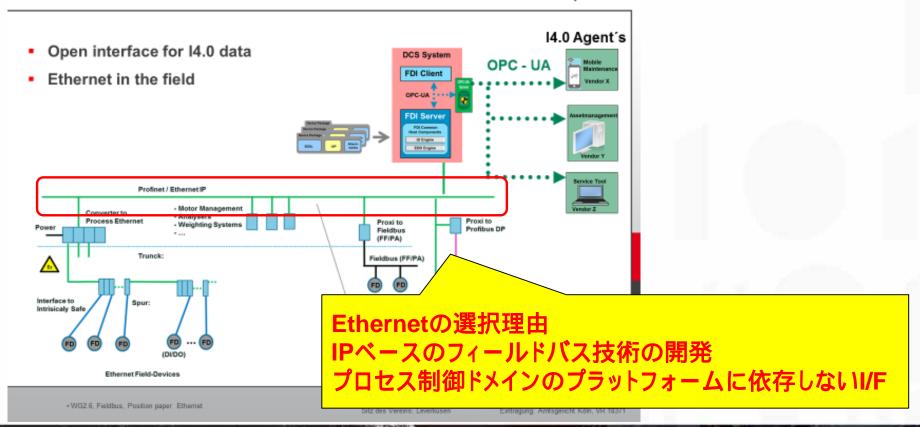
革新的なアプリケーション実現ベースとなる部分と位置づけ (アジャイル開発)



### NOA実現に必要なコンポーネント∶APL

Goal: Basis for Industry 4.0







## 2線式電源供給可能なEthernet

### Advanced Physical Layer (APL)

#### PNOホストによるAPL Project

#### 次のステップ

- 11社のIndustry Parrnersサポートの下、PNO、 FCG、ODVAの共同での開発
- § IEEE 802.3cg 標準 (10 Mbps) に準拠
- § 防爆環境下での測定可能な2線式電源供給
- § テストケースと認証基準策定

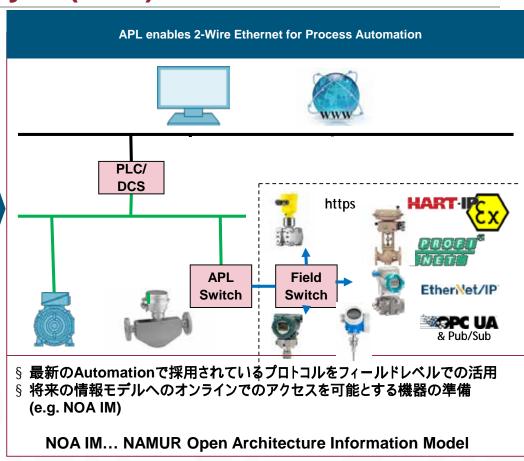
#### **IEEE 802.3cg Task Force**

#### 次のステップ

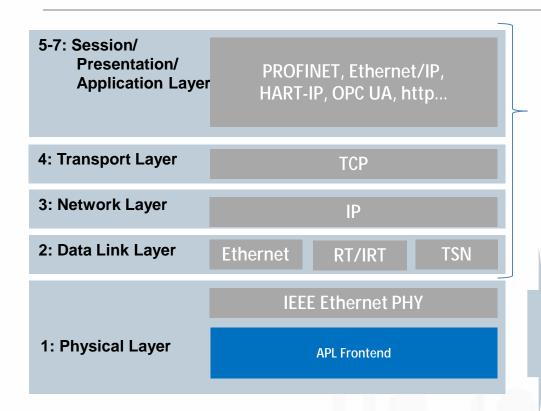
§ 新Ethernet技術を規定するためのタスクフォース

(自動車、IA、ビル)

- § 2-wire
- § Up to 1000m
- § @10Mbps
- § for overall industries



# 様々なEthernetベースのプロトコルに対応



Higher Layers work independently from PHY-Layer

APL ONLY modifies PHYSICAL Layer Security,
Device Integration
etc.
are totally
independent topics

### APL仕樣概要

- I Process Automation用の2線Ethernet通信の物理層規格
- I IEEE802.3cg (10BASE-T1L) 10Mbps を策定中。これに準拠
- l それ以外に2線の通信ライン上に<mark>電源重畳</mark>させる。



- I Trunk と Spurがあり、ケーブル長はそれぞれ1km、200m通信可能
- I Hazardous Area Applicationを本安(Ex ia、Zone 0まで対応)で実現する。
- 10BASE-T1L+電源の授受関係、本安のパラメータなどをAPLという団体が別途規定する。
  - ·2線式電源供給
  - ·本質安全防爆対応
  - ·長いケーブル長 1000m

により、Process Automationに適用可能なEthernetを実現



### **Advanced Physical Layer**

### 主要件

- Trunk
  - 全2重
  - o ケーブル長: 1000 m, 全2重10Mbit/s
  - スイッチと50台のフィールド機器に対する供給電力
  - o 設置領域: Zone1 / Class1 Div1

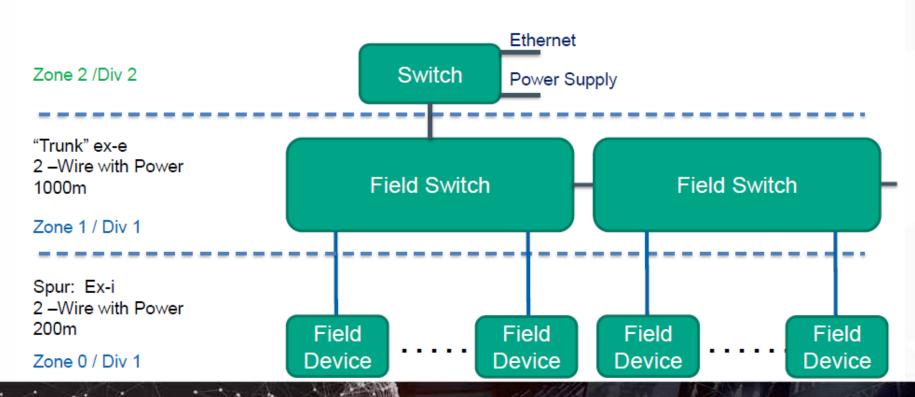
### Spur

- 全2重
- o ケーブル長:200 m
- FISCO本安に類似のコンセプトとエンティティIS
- フィールド機器の消費電力:~500mW
- o 設置領域:Zone 0 / Class1/Div1



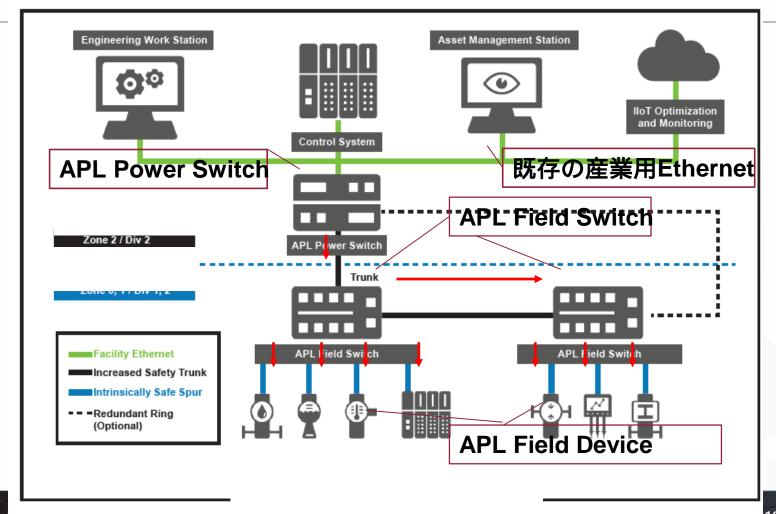
### **Advanced Physical Layer**

# Ethernet in the Field – Basic Topology





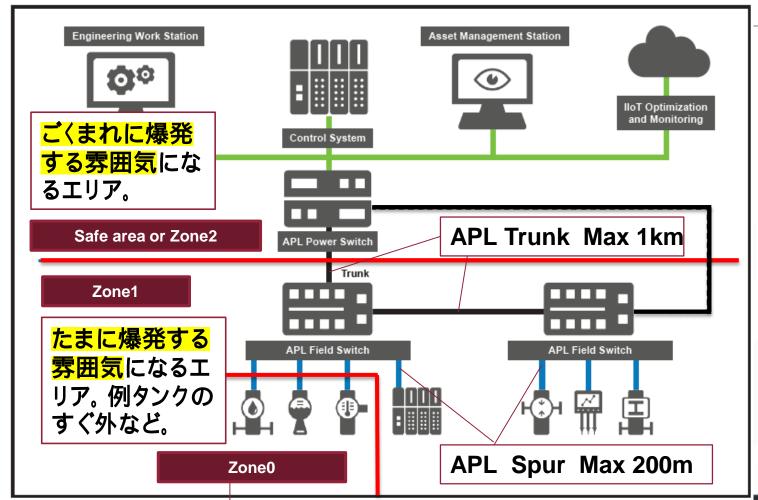
# APL接続構成







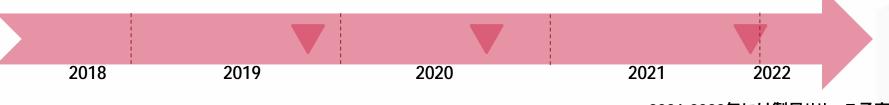
### APL接続構成 防爆対応





常に爆発する雰囲気が存在するエリア 例:タンクの 19 中本安Ex iaしか単独でおける防爆はない。

### APL仕様開発状況と製品リリース時期



2021-2022年には製品リリース予定









IEEE802.3cg Task Force Enhancements to IEEE 802.3 completed in **2019**  Industrial Ethernet respective specifications updated in **2020** 

First field devices for use in hazardous locations expected to be available in 2021-2022



# デモシステム 計測展 2018 OSAKA FCG-Jブース



メディアコンバータ APL to 100Mbps

192.168.1.102



**FDI Device Package** 



WIRESHARK

WIRESHARK

With the property of the

192.168.1.100 スイッチ DHCP

#### Webプラウザから

- PV値
- FDI Device Package
- 各種マニュアル類 にアクセス可能



# FieldComm Group内での取り組み

- Ⅰ FieldComm Groupは適合性試験に関する仕様開発を担当
  - FF, HARTを始め、FDI認証試験などの豊富な仕様開発実績による
  - FCG本部自体が認証試験実施機能を有している



# ご清聴ありがとうございました